

女子弓道部

桜の樹の下で

学校教育学部小学校教員養成課程三年

中澤 しのぶ

私達が活動している道場は、桜の樹に囲まれている。

冬が終わり、だんだん暖かくなると、桜の樹は小さなつぼみをつけはじめる。つぼみは次第にふくらみ、誇らしげに花を咲かす。そして私達に春の訪れを告げる。桜色で辺一面を染めつくすと、文字通り「桜吹雪」となり地に帰つていく。

新芽が出て葉桜になると、初夏を思わせる。爽やかな風を受け、桜の葉は優しげに揺れ、道場へ涼しさを運んでくれる。

青々とした葉が色づき、落葉し、桜は充電期間を迎えるとする。赤茶色の落ち葉で道場が埋めつくされると、やがて季節は移り行き、銀世界となる。真白な雪がひらひらと舞い降りて来る。静かな中に、雪の降る音だけが響きわたる。

桜を通して、私達は季節を感じ、弓を引き、自分を見つめる。

私達が来る日も来る日も重ねた努力

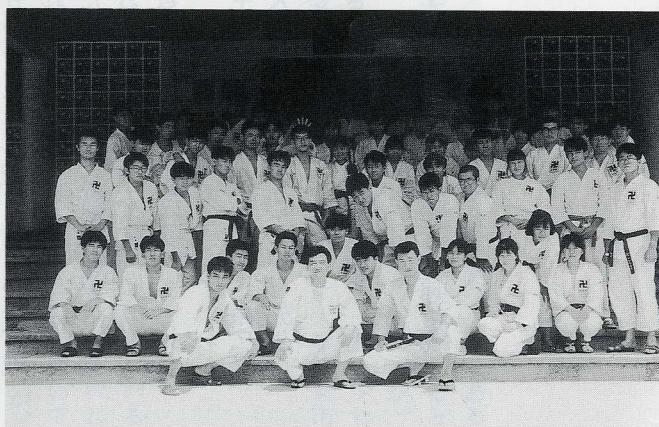
を、桜の樹はじつと見守ってくれる。私達は、桜の樹を見れば必ず、今、こうして活動していることを思い出すだろう。一生懸命がんばった日のことを見ては、舞い散る雪を見ては……。私達は、桜の樹に囲まれた道場で活動している。

少林寺拳法と聞いて、皆さんはいつたい何を連想されるであろうか。派手なアクション等は重い浮かんでも、その実体はあまり知らないのではないだろうか。少林寺拳法は、戦後まもなく、開祖宗道臣（日本人）が香川県の多度津で始めた、自己確立を旨とする宗門の行なのである。つまり、護身術としての技を楽しみながら、自己を肉体的にも、精神的にも磨き、社会に出てリーダーシップのとれる人間になれるよう努力することなのである。

今では日本のみならず、世界各国にも支部道院が置かれ、開祖の教えに共感した人々が日夜修行に励み、眞の人づくり、国づくりを目指している。少林寺拳法創設五十周年を間近にひかえ、今一度開祖の残した教えを見直し、さらなる発展と努力に力を入れなければならぬ時期にきている。

我々広大少林寺拳法部も、開祖の教えを受け継ぎ、眞の少林寺拳法を目指して頑張っている。また、タイトルに

大学移転という困難な時期にきて、千田、西条と場所的には遠く離れるが、別々になることなく、一つの支部として、部長をはじめ、監督、コーチ、O.B.、現役部員が一つとなつて頑張つていくつもりである。



少林寺拳法部

可能性への挑戦

経済学部経済学科三年

加藤 隆裕